Report (報 告)

鳥類の目と科の新しい和名
(1) 非スズメ目・イワサザイ類・亜鳴禽類

山崎 剛史^{1,*}・亀谷 辰朗¹

Revised Japanese Names for Avian Orders and Families.
(1) Non-passerines, New Zealand Wrens and Suboscines

Takeshi Yamasaki and Tatsuaki Kameya

Abstract. Japanese names are a useful tool for Japanese speakers to communicate scientifically about birds. However, over 30 years have already passed since the most influential book treating Japanese names for all modern birds (Yamashina 1986) was published, since when the classification of birds has undergone major changes. Here we provide a revised list of Japanese names for order- and family-level taxa, which adopts the latest classification system (Gill & Donsker 2018).

Key words: Japanese names, New Zealand Wrens, Non-passerines, Orders and families, Suboscines.

キーワード: 和名, イワサザイ類, 非スズメ目, 目と科, 亜鳴禽類.

はじめに

鳥類に関する科学的なコミュニケーションは、ある鳥の名称がどの鳥のことを指すのかについて、話者間のコンセンサスがなければ成り立たない。学名は、名称が話者によってぶれる事態を避けるために特別に整備された名称の体系であるため、このような目的に最もよく合っている。学名は、先取権の原理（先につけられた名称を用いなければならない）、同名関係の原理（同じ名称を別のものに用いることを禁じる）、担名タイプの原理（名称を担う基準となる1つの標本（種の学名の場合）、1つの種（属の学名の場合）、1つの属（科の学名の場合）を決めなければならない）などに従うだけでなく、その用法に疑義がある場合の結論の出し方（審議会裁定）までもが整備されている（動物命名法国際審議会 2005, 山崎 2007）。

しかし、学名の多くはラテン語やギリシア語に由来しており、それらの言語になじみの薄い話者にとっては難解である。このため、さまざまな言語の話者が母国語による鳥類の名称の体

Received 20 November 2018.

¹ 公益財団法人山階鳥類研究所, 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115.

* 責任著者. E-mail: yamasaki@yamashina.or.jp

¹ Yamashina Institute for Ornithology, 115 Konoyama, Abiko, Chiba 270-1145, Japan.

* Corresponding author. E-mail: yamasaki@yamashina.or.jp

Table 1. A list of Japanese names proposed here for orders and families of Non-passerines, New Zealand Wrens and Suboscines. The classification follows Gill & Donsker (2018). Asterisks show combinations of Japanese and scientific names not appearing in Yamashina (1986) or Japanese names newly coined here.

表1. 非スズメ目・イワサザイ類・亜鳴禽類の目と科の新しい和名のリスト。分類はGill & Donsker (2018) に準拠している。アスタリスクは、山階 (1986) には見られない学名と和名の組み合わせおよび新称和名を表す。

Scientific name 学名	New Japanese name 新和名
STRUTHIONIFORMES	ダチョウ目
Struthionidae	ダチョウ科
RHEIFORMES	レア目*
Rheidae	レア科
APTERYGIFORMES	キーウィ目*
Apterygidae	キーウィ科
CASUARIIFORMES	ヒクイドリ目*
Casuariidae	ヒクイドリ科
TINAMIFORMES	シギダチョウ目
Tinamidae	シギダチョウ科
ANSERIFORMES	カモ目
Anhimidae	サケビドリ科
Anseranatidae	カササギガン科*
Anatidae	カモ科
GALLIFORMES	キジ目
Megapodiidae	ツカツクリ科
Cracidae	ホウカンチョウ科
Numididae	ホロホロチョウ科*
Odontophoridae	ハウズラ科*
Phasianidae	キジ科
GAVIIFORMES	アビ目
Gaviidae	アビ科
SPHENISCIFORMES	ペンギン目
Spheniscidae	ペンギン科
PROCELLARIIFORMES	ミズナギドリ目
Oceanitidae	アシナガウミツバメ科*
Diomedidae	アホウドリ科
Hydrobatidae	ウミツバメ科
Procellariidae	ミズナギドリ科
PODICIPEDIFORMES	カイツブリ目
Podicipedidae	カイツブリ科
PHOENICOPTERIFORMES	フラミンゴ目
Phoenicopteridae	フラミンゴ科
PHAETHONTIFORMES	ネッタイチョウ目*
Phaethontidae	ネッタイチョウ科
CICONIIFORMES	コウノトリ目
Ciconiidae	コウノトリ科
PELECANIFORMES	ペリカン目
Threskiornithidae	トキ科
Ardeidae	サギ科

Table 1. Continued.
表1. つづき.

Scientific name 学名	New Japanese name 新和名
Scopidae	シュモクドリ科
Balaenicipitidae	ハシビロコウ科
Pelecanidae	ペリカン科
SULIFORMES	カツオドリ目*
Fregatidae	ゲンカンドリ科
Sulidae	カツオドリ科
Phalacrocoracidae	ウ科
Anhingidae	ヘビウ科
ACCIPITRIFORMES	タカ目*
Cathartidae	コンドル科
Sagittariidae	ヘビクイワシ科
Pandionidae	ミサゴ科*
Accipitridae	タカ科
OTIDIFORMES	ノガン目*
Otididae	ノガン科*
MESITORNITHIFORMES	クイナモドキ目*
Mesitornithidae	クイナモドキ科
CARIAMIFORMES	ノガンモドキ目*
Cariamidae	ノガンモドキ科
EURYPYGIFORMES	ジャノメドリ目*
Rhynchotidae	カゲー科
Eurypygidae	ジャノメドリ科
GRUIFORMES	ツル目
Sarothruridae	アフリカクイナ科*
Heliornithidae	ヒレアシ科
Rallidae	クイナ科
Psophiidae	ラッパチョウ科
Gruidae	ツル科
Aramidae	ツルモドキ科*
CHARADRIIFORMES	チドリ目
Turnicidae	ミフウズラ科
Burhinidae	イシチドリ科
Chionidae	サヤハシチドリ科*
Pluvianellidae	マゼランチドリ科*
Haematopodidae	ミヤコドリ科
Dromadidae	カニチドリ科
Ibidorhynchidae	トキハシゲリ科
Recurvirostridae	セイタカシギ科
Charadriidae	チドリ科
Pluvianidae	ナイルチドリ科*
Rostratulidae	タマシギ科
Jacaniidae	レンカク科
Pedionomidae	クビワミフウズラ科
Thinocoridae	ヒバリチドリ科
Scolopacidae	シギ科

Table 1. Continued.
表1. つづき.

Scientific name 学名	New Japanese name 新和名
Glareolidae	ツバメチドリ科
Laridae	カモメ科
Stercorariidae	トウゾクカモメ科
Alcidae	ウミスズメ科
PTEROCLIFORMES	サケイ目*
Pteroclididae	サケイ科*
COLUMBIFORMES	ハト目
Columbidae	ハト科
OPISTHOCOMIFORMES	ツメバケイ目
Opisthocomidae	ツメバケイ科
MUSOPHAGIFORMES	エボシドリ目*
Musophagidae	エボシドリ科
CUCULIFORMES	カッコウ目
Cuculidae	カッコウ科
STRIGIFORMES	フクロウ目
Tytonidae	メンフクロウ科
Strigidae	フクロウ科
CAPRIMULGIFORMES	ヨタカ目
Podargidae	ガマグチヨタカ科
Steatornithidae	アブラヨタカ科
Nyctibiidae	タチヨタカ科
Caprimulgidae	ヨタカ科
APODIFORMES	アマツバメ目
Aegothelidae	ズクヨタカ科
Hemiprocnidae	カンムリアマツバメ科
Apodidae	アマツバメ科
Trochilidae	ハチドリ科
COLIIFORMES	ネズミドリ目
Coliidae	ネズミドリ科
TROGONIFORMES	キヌバネドリ目
Trogonidae	キヌバネドリ科
LEPTOSOMIFORMES	オオブッポウソウ目*
Leptosomidae	オオブッポウソウ科*
CORACIIFORMES	ブッポウソウ目
Coraciidae	ブッポウソウ科
Brachypteraciidae	ジブッポウソウ科
Alcedinidae	カワセミ科
Todidae	コビトドリ科
Momotidae	ハチクイモドキ科
Meropidae	ハチクイ科
BUCEROTIFORMES	サイチョウ目*
Upupidae	ヤツガシラ科
Phoeniculidae	カマハシ科
Bucorvidae	ジサイチョウ科*
Bucerotidae	サイチョウ科

Table 1. Continued.
表1. つづき.

Scientific name 学名	New Japanese name 新和名
PICIFORMES	キツツキ目
Galbulidae	キリハシ科
Bucconidae	オオガシラ科
Capitonidae	アメリカゴシキドリ科*
Semnornithidae	オオハシゴシキドリ科*
Ramphastidae	オオハシ科
Megalaimidae	ゴシキドリ科*
Lybiidae	アフリカゴシキドリ科*
Indicatoridae	ミツオシエ科
Picidae	キツツキ科
FALCONIFORMES	ハヤブサ目*
Falconidae	ハヤブサ科
PSITTACIFORMES	オウム目
Strigopidae	フクロウオウム科*
Cacatuidae	オウム科
Psittacidae	ヨウム科*
Psittaculidae	インコ科*
PASSERIFORMES	スズメ目
Acanthisittidae	イワサザイ科
Sapayoidae	ヒロハシマイコドリ科*
Eurylaimidae	ヒロハシ科
Pittidae	ヤイロチョウ科
Furnariidae	カマドドリ科
Thamnophilidae	アリドリ科*
Formicariidae	アリツグミ科*
Grallariidae	ジアリドリ科*
Conopophagidae	アリサザイ科
Rhinocryptidae	オタテドリ科
Melanopareiidae	ムナオビオタテドリ科*
Tyrannidae	タイランチョウ科
Cotingidae	カザリドリ科
Pipridae	マイコドリ科
Tityridae	カザリドリモドキ科*

系を独自に発達させてきた。和名については、森岡(1980, 1981, 1982, 1983), 山階(1986), 白井(1992)などが整備を進めた。

これらの試みのなかで、最も影響力が大きかったものは、『世界鳥類和名辞典』(山階 1986)だろう。これは現生鳥類のすべてを対象にした初めてのリストであり、1冊の書籍にまとめられ、販売された。これは多方面で用いられるに至った書籍だが、出版からすでに30年以上が経過している。この間に分子系統学が著しく発展し、鳥類の分類体系は大きく改められた。結果として、山階(1986)の和名の体系は、古さが目立つようになってきた。

そこで筆者らは数年前より、山階(1986)の和名の体系のアップデートに取り組んできた。これまでにフクロウ類の種和名について、その成果の公表を行った(山崎ほか 2017)。本稿で

は、非スズメ目とスズメ目の一部（イワサザイ類、亜鳴禽類）について、目レベル、科レベルの和名を整備した結果を報告する。

方 法

以下、山階(1986)の和名を山階和名、ここで提唱する和名を新和名と呼ぶ（新称とは限らない。山階和名がそのまま新和名として採用された例も多い）。

著名な分子系統学者の協力のもと、内容の確認、更新が定期的かつ頻繁に行われている Gill & Donsker (2018) を最新の分類体系として採用した。そこに掲載されている非スズメ目、イワサザイ類、亜鳴禽類のすべての目と科の学名に対して適切な和名を与えることが本稿の目標である。

私たちは最初に、山階(1986)に掲載されている種のすべてについて、Gill & Donsker (2018) の高次分類体系のどの目、どの科に含めるのが適切かを検討した。

和名の安定性を担保するため、Gill & Donsker (2018) に登場する目・科の学名のうち、山階(1986)にも登場するものについては、原則として山階和名を新和名としてそのまま用いることにしたが、分類の変遷のため、それが不適切になる例も多く含まれると予想された。私たちはそのような問題があるかどうかを、その目、その科に含まれている種の山階和名を調べることで検討した。

山階和名が不適切となる目・科、山階(1986)に掲載されていない目・科については、新たな和名を考案した。

結 果

検討の対象になった40目・123科のうち、25目(62.5%)、96科(78.0%)では、山階和名をそのまま用いることができた。新和名の考案を必要とする目と科はそれぞれ15目(37.5%)、27科(22.0%)であった(Table 1)。後者の目、科に与えられた新和名は以下に列記する通りである。

RHEIFORMES, 新和名: レア目

APTERYGIFORMES, 新和名: キーウィ目

CASUARIIFORMES, 新和名: ヒクイドリ目

いずれも山階(1986)のダチョウ目が分割されてできた目である。それぞれレア科、キーウィ科、ヒクイドリ科のみを含む。科和名から新和名をつけた。

Anseranatidae, 新和名: カササギガン科

山階(1986)のカモ科が分割されてできた科。本科は、カササギガン *Anseranas semipalmata* 1種のみからなる。本種の和名から新和名をつけた。

Numididae, 新和名: ホロホロチョウ科

山階(1986)のキジ科が分割されてできた科。本科に属するすべての種の和名は末尾が「ホロホロチョウ」で終わること、「ホロホロチョウ」で終わる種は本科のほかには見られないことから、新和名をホロホロチョウ科とした。

Odontophoridae, 新和名: ハウズラ科

山階(1986)のキジ科が分割されてできた科。この科のタイプ属（科名をつける際の基準と

なる属)は*Odontophorus*だが、山階(1986)はこの属に2つの和名(ナンベイウズラ属、ハウズラ属)を与えた。吉井(2005)は本科の和名をナンベイウズラ科とした。しかし、本科を構成する種にはアフリカ産の種も含まれるため、これは適切な和名ではない。一方、黒田・森岡(1987)は、キジ科の亜科*Odontophorinae*に対し、ハウズラ亜科という和名を与えた。私たちは新和名としてハウズラ科を採用した。

Oceanitidae, 新和名: アシナガウミツバメ科

山階(1986)のウミツバメ科が分割されてできた科。タイプ属である*Oceanites*の属和名は、山階(1986)ではアシナガウミツバメ属である。本科に含まれる種はいずれも脚が長いことを特徴としている。以上のことから、新和名をアシナガウミツバメ科とした。なお、科の英名はSouthern Storm-Petrelであるが、これを日本語に直訳してミナミウミツバメ科とするのは、本科が南半球だけでなく北半球にも分布することから、適切でないと考えられた。

PHAETHONTIFORMES, 新和名: ネットイチョウ目

山階(1986)のペリカン目が分割されてできた目。ネットイチョウ科のみを含む。科和名から新和名をつけた。

SULIFORMES, 新和名: カツオドリ目

山階(1986)のペリカン目が分割されてできた目。目名は科名*Sulidae*をもとにしてつけられた。この科の和名から新和名をつけた。

ACCIPITRIFORMES, 新和名: タカ目

山階(1986)はFALCONIFORMESをタカ目と呼んでいた。山階(1986)のFALCONIFORMESはコンドル科、タカ科、ヘビクイワシ科、ハヤブサ科を含んでいた。一方、Gill & Donsker(2018)はFALCONIFORMESをハヤブサ科1科のみとし、そのほかの昼行性猛禽類は本目ACCIPITRIFORMESに分類した。本目はタカ科*Accipitridae*を含むので、その和名から新和名をつけた。

Pandionidae, 新和名: ミサゴ科

山階(1986)のタカ科が分割されてできた科。山階(1986)に掲載されている種で本科に含まれるのは、ミサゴ*Pandion haliaetus* 1種のみである。本種の和名から新和名をつけた。

OTIDIFORMES, 新和名: ノガン目

山階(1986)のツル目が分割されてできた目。ノガン科のみを含む。科和名から新和名をつけた。

Otididae, 新和名: ノガン科

山階(1986)はOtididaeをノガン科と呼んだ。OtididaeはOtididaeと綴られることがあり、Gill & Donsker(2018)もそれを採用した。ここではOtididaeにノガン科の和名を与えた。

MESITORNITHIFORMES, 新和名: クイナモドキ目

CARIAMIFORMES, 新和名: ノガンモドキ目

いずれも山階(1986)のツル目が分割されてできた目。それぞれクイナモドキ科、ノガンモドキ科のみを含む。科和名から新和名をつけた。

EURYPYGIFORMES, 新和名: ジャノメドリ目

山階(1986)のツル目が分割されてできた目。目名の基本となった和名ジャノメドリ科から新和名をつけた。

Sarothruridae, 新和名: アフリカクイナ科

山階(1986)のクイナ科が分割されてできた科。本科は*Sarothrura*と*Canirallus*からなる。山階(1986)は*Sarothrura*を独立の属として認めず、シマクイナ属*Coturnicops*に統合していた。内田・島崎(1987)はこの属を認め、アフリカシマクイナ属という和名を与えた。一方、*Canirallus*は山階(1986)にもある属で、その和名はアフリカクイナ属であった。

タイプ属の和名を新和名に採用するなら、本科はアフリカシマクイナ科と呼ばれることになるが、*Canirallus*に属する種はシマクイナ*Coturnicops exquisitus*と同じような小型のクイナ類ではない。このことから、科の和名はアフリカクイナ科とするのがより適切であると判断した。なお、本科はマダガスカルとアフリカにのみ特産する。

Aramidae, 新和名: ツルモドキ科

山階(1986)のツル科が分割されてできた科。本科は、ツルモドキ*Aramus guarauna* 1種のみからなる。本種の和名から新和名をつけた。

Chionidae, 新和名: サヤハシチドリ科

山階(1986)はChionidaeをサヤハシチドリ科と呼んだ。この科の綴りにはバリエーションがあり、Chionidaeの綴りが用いられることもある(Bock 1994)。Gill & Donsker (2018)は後者を採用した。ここではChionidaeにサヤハシチドリ科の和名を与えた。

Pluvianellidae, 新和名: マゼランチドリ科

山階(1986)のチドリ科が分割されてできた科。本科は、マゼランチドリ*Pluvianellus socialis* 1種のみからなる。本種の和名から新和名をつけた。

Pluvianidae, 新和名: ナイルチドリ科

山階(1986)のツバメチドリ科が分割されてできた科。本科は、ナイルチドリ*Pluvianus aegyptius* 1種のみからなる。本種の和名から新和名をつけた。

PTEROCLIFORMES, 新和名: サケイ目

山階(1986)のハト目が分割されてできた目。サケイ科のみを含む。科和名から新和名をつけた。

Pteroclididae, 新和名: サケイ科

山階(1986)はPteroclididaeをサケイ科と呼んだ。Pteroclididaeはかつてよく用いられた綴りだが、文法的な問題をもつことが知られている(Bock 1994)。Gill & Donsker (2018)はPteroclididaeの綴りを採用した。ここではPteroclididaeにサケイ科の和名を与えた。

MUSOPHAGIFORMES, 新和名: エボシドリ目

山階(1986)のカッコウ目が分割されてできた目。エボシドリ科のみを含む。科和名から新和名をつけた。

LEPTOSOMIFORMES, 新和名: オオブッポウソウ目

山階(1986)のブッポウソウ目が分割されてできた目。オオブッポウソウ科のみを含む。科和名から新和名をつけた。

Leptosomidae, 新和名: オオブッポウソウ科

山階(1986)はLeptosomatidaeをオオブッポウソウ科と呼んだ。Leptosomatidaeはかつてよく用いられた綴りだが、今ではそれが不適切な綴りであることがわかっている(Bock 1994)。命名規約上はLeptosomidaeの綴りを用いることが正しく、Gill & Donsker (2018) もそれを採用し

ている。私たちはオオブッポウソウ科という和名を *Leptosomidae* に与えた。

BUCEROTIFORMES, 新和名: サイチョウ目

山階 (1986) のブッポウソウ目が分割されてできた目。目の学名をつける際の基準となったサイチョウ科 *Bucerotidae* から新和名を取った。

Bucorvidae, 新和名: ジサイチョウ科

本科は、山階 (1986) ではサイチョウ科 *Bucerotidae* に含められていた。科名のもとになった *Bucorvus* の和名、ジサイチョウ属 (山階 1986) から科の和名をつけた。

Capitonidae, 新和名: アメリカゴシキドリ科

山階 (1986) のゴシキドリ科 *Capitonidae* は、Gill & Donsker (2018) では *Capitonidae* (中米および南米に分布), *Semnornithidae* (アジアに分布), *Megalaimidae* (同前), *Lybiidae* (アフリカに分布) の4科に細分された。和名の安定性を重視する立場からは、*Capitonidae* に「ゴシキドリ科」という和名を与える案が考えられる。しかし、これは混乱のもとになるだろう。台湾に生息するゴシキドリ類の1種 *Psilopogon nuchalis* が古くから種ゴシキドリと呼ばれているが (例えば、日本鳥学会 1932), *Capitonidae* はこの種を含まないからである。

本科についてはタイプ属の和名から新和名をつけることも難しい。不可解なことだが、山階 (1986) は種ゴシキドリ *Megalaima ootii* を含む *Megalaima* ではなく、*Capito* に「ゴシキドリ属」という和名を与えた (*Megalaima* は「オオゴシキドリ属」と呼ばれている)。タイプ属の和名に基づく場合も「ゴシキドリ科」となるが、それは見た目に反して種ゴシキドリを含まない。

そこで私たちは、本科をアメリカゴシキドリ科と呼ぶことにした。そのような名称の種は含まれていないが、本科の種はすべて中米または南米に分布するからである。

Semnornithidae, 新和名: オオハシゴシキドリ科

山階 (1986) のゴシキドリ科 *Capitonidae* が分割されてできた科。タイプ属 *Semnornis* の和名から新和名をつけた。

Megalaimidae, 新和名: ゴシキドリ科

山階 (1986) のゴシキドリ科 *Capitonidae* が分割されてできた科。伝統的に「ゴシキドリ」という種和名が与えられる台湾産の種を含む本科を、ゴシキドリ科と呼ぶことにした。

Lybiidae, 新和名: アフリカゴシキドリ科

山階 (1986) のゴシキドリ科 *Capitonidae* が分割されてできた科。タイプ属 *Lybius* の和名はハバシゴシキドリ属だが (山階 1986), 上嘴に歯を思わせる突出部がある種は本科の一部のみなので (Winkler *et al.* 2015), この属和名から新和名をつけるのはあまり適切でない。本科の種はすべてアフリカ産であるため、アフリカゴシキドリ科という名称を与えた。

FALCONIFORMES, 新和名: ハヤブサ目

山階 (1986) ではコンドル科, タカ科, ヘビクイワン科, ハヤブサ科を含み, タカ目と呼ばれていた。Gill & Donsker (2018) の本目はハヤブサ科のみを含む。科和名から新和名をつけた。

Strigopidae, 新和名: フクロウオウム科

山階 (1986) のインコ科 *Psittacidae* が分割されてできた科。タイプ属 *Strigops* の和名から新和名をつけた。

Psittacidae, 新和名: ヨウム科

Psittaculidae, 新和名: インコ科

いずれも、山階(1986)のインコ科Psittacidaeが分割されてできた科。和名の安定性を重視する立場からはPsittacidaeに「インコ科」の和名を与える案が導かれるが、本科はアフリカとアメリカ大陸に分布する種からなる科であり、アジア・太平洋・オーストラリアの種を含まない。ショウジョウインコ *Lorius garrulus*, ダルマインコ *Psittacula alexandri*, ヒインコ *Eos bornea*, オオムラサキインコ (オオハナインコ *Eclectus roratus* の雌), コムラサキインコ *Eos squamata* など、日本人が最初期に接したインコ類(黒田 1967) はすべてPsittaculidaeに含まれる。以上のことから、私たちはPsittaculidaeをインコ科と呼ぶことにした。Psittacidaeについては、タイプ属 *Psittacus* の和名ヨウム属(山階 1986) から新和名をつけた。

Sapayoidae, 新和名: ヒロハシマイコドリ科

山階(1986)のマイコドリ科が分割されてできた科。本科は、ヒロハシマイコドリ *Sapayoa aenigma* 1種のみからなる。本種の和名から新和名をつけた。

Thamnophilidae, 新和名: アリドリ科

Formicariidae, 新和名: アリツグミ科

Grallariidae, 新和名: ジアリドリ科

いずれも山階(1986)のアリドリ科Formicariidaeが分割されてできた科。和名の安定性を重視する立場からはFormicariidaeに「アリドリ科」の和名を与える案が導かれるが、本科の種は通常はアリの群れを追わない(Winkler *et al.* 2015)。タイプ属 *Formicarius* の属和名はカオグロアリツグミ属だが(山階 1986), 本科に含まれるもう1つの属であるアリツグミ属 *Chamaeza* の種は顔が黒くはない。現在本科に含まれる種の和名はいずれもアリツグミで終わり、アリツグミの名をもつ種はThamnophilidaeのミスジアリツグミ *Myrmornis torquata* 以外には見られないことから、本科をアリツグミ科と呼ぶことにした。

Grallariidaeについては、タイプ属 *Grallaria* の和名ジアリドリ属(山階 1986) から新和名をつけた。この科は英名を Antpittas といい(Gill & Donsker 2018), アリヤイロチョウ科という和名が与えられることもある(例えば、林・山崎 2013)。本科の種は、羽色はやイロチョウとは違って地味であるが、脚が長く、体型がヤイロチョウによく似る。

Thamnophilidaeは237種からなり、12種のアリツグミ科、53種のジアリドリ科よりはるかに種数が多い。タイプ属 *Thamnophilus* の和名はアリモズ属であるが(山階 1986), 和名がアリドリで終わる種も多く含んでいる。アリドリ科の名を引き継ぐのがよいと判断した。

Melanopareiidae, 新和名: ムナオビオタテドリ科

山階(1986)のオタテドリ科Rhincryptidaeが分割されてできた科。タイプ属 *Melanopareia* の和名から新和名をつけた。すべての種の胸に黒い帯がある。

Tityridae, 新和名: カザリドリモドキ科

山階(1986)のタイランチョウ科Tyrannidaeが分割されてできた科。タイプ属 *Tityra* の和名はハグロドリ属である(山階 1986)。しかし、黒い翼がよく目立つ鳥は45種いるこの科のうち、*Tityra* 属の3種のみである。この科の最大の属は *Pachyramphus* であり、その属和名はカザリドリモドキ属である(山階 1986)。新和名はこの和名からつけた。

謝 辞

本研究は、文部科学省科学研究費補助金特定奨励費（平成30～32年度）の交付を受けて実施された。

引用文献

- Bock, W. J. 1994. History and nomenclature of avian family-group names. *Bulletin of the American Museum of Natural History* **222**: 1–281.
- 動物命名法国際審議会 2005. 国際動物命名規約 第4版 日本語版〔追補〕. 日本分類学会連合, 東京.
- Gill, F. & Donsker, D. (eds.) 2018. *IOC World Bird List* (v 8.2). doi: 10.14344/IOC.ML.8.2. Accessed on 19 November 2018.
- 林 良博・山崎剛史（監訳）2013. 鳥の絶滅危惧種図鑑. 緑書房, 東京.
- 黒田長久・森岡弘之（監修）1987. 世界の動物 分類と飼育101〔キジ目〕. 東京動物園協会, 東京.
- 黒田長禮 1967. 世界のオウムとインコ. 日本鳥学会, 東京.
- 森岡弘之 1980. 世界の鳥の分類和名 (1). 鳥 **29**: 99–102.
- 森岡弘之 1981. 世界の鳥の分類和名 (2). 鳥 **30**: 95–104.
- 森岡弘之 1982. 世界の鳥の分類和名 (3). 鳥 **31**: 25–31.
- 森岡弘之 1983. 世界の鳥の分類和名 (4). 鳥 **32**: 161–173.
- 日本鳥学会 1932. 改訂 日本鳥類目録. 日本鳥学会, 東京.
- 白井祥平 1992. 世界鳥類名検索辞典・和名篇. 原書房, 東京.
- 内田清一郎・島崎三郎 1987. 鳥類学名辞典. 東京大学出版会, 東京.
- Winkler, D. W., Billerman, S. M. & Lovette, I. J. 2015. *Bird Families of the World: An Invitation to the Spectacular Diversity of Birds*. Lynx Edicions, Barcelona.
- 山崎剛史 2007. 鳥類の保全と分類学. 保全鳥類学 (山階鳥類研究所編), pp. 13–31. 京都大学学術出版会, 京都.
- 山崎剛史・亀谷辰朗・太田紀子 2017. フクロウ目の新しい種和名. 山階鳥類学雑誌 **49**: 31–40.
- 山階芳麿 1986. 世界鳥類和名辞典. 大学書林, 東京.
- 吉井 正（監修）2005. 三省堂 世界鳥名事典. 三省堂, 東京.